

市史講座第1回ミニレポート

4月14日(土) 第一回の講座が開かれました。

第1部：「気象災害からみる松江の気候」(講師: 島根大学法文学部教授 田坂郁夫先生)



田坂先生は、はじめに松江地域は気温の面から四季の変化が明瞭で日本のほぼ平均気温であり、降水量からは年中多めに降雨のある地域である事を説明されました。そして、江戸時代の気象災害として大雨、大雪、大風、干害、降霜、黄砂、冷夏、大火などが多くあった地域であり、これら気象災害のなかから、豪雪になった時の降雪量や豪雨時の降雨量などの記録を紹介されました。

さらに異常気象が発生するメカニズムを戦後から現在までの豪雨・豪雪時の記録とその時の気象状況を例にアジア全体の天気図によって解説され、アジアの地形、日本の地形、松江の位置する場所によって発生する気象のことをわかりやすく話されました。

第2部：「神社における都市住民の信仰と芸能」(講師: 島根大学法文学部准教授 小林准士先生)



小林先生は売布神社(白潟社)、伊勢宮両社の末社、境内境外社の例から、近世期の氏子組織、講中の状況や祭礼等における角力・芸能などの興業に注目され、「社公私用雑事控帖」「社用公用諸事日記」「大保恵日記」等の史料を基に、城下町松江の人々の信仰と娯楽について明らかにされました。

また神道講談・角力・見せ物について年ごとの開催リストにより具体的な興業の例を示され、当時の珍しい見せ物など興味深く話されました。